



6月1日 開所式の報告



支援に感謝し、新たな決意でスタートします！

吹田子ども支援センター 代表 森本英之

開所式を迎えて



好天に恵まれた6月1日(土)、午前10時から「吹田子ども支援センター」事務所前で開所式を行いました。

休日の朝にもかかわらず、吹田市長井上哲也さん、吹田市教育長西川俊孝さんをはじめ多数のご来賓の方や友人・知人61名が駆けつけてくださり、小さな市民活動団体のささやかなスタートとしては、身に余るご支援となりました。本当にありがとうございました。また、開所式に出席できなかった多くの方から電話やメールで励ましのお言葉をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

理事報告・来賓祝辞の要約



(発言内容は森本の責任でお話を要約したり、言い換えたりしています。当日のお話の詳細な記録ではありません。ご了承下さい)

開所式は、朝日放送アナウンサーの堀江政生さんの司会で進行しました。

理事の安田信人さん(前大阪女学院高等学校校長)は、「核家族化、地域の有り様など社会が大きく変化した今、子どもたちや大人たち、地域につながりが求められています。そうした今、『吹田こども支援センター』が、子どもや保護者・教職員がリラックスして集える場所でありたい、子どもや教育を市民の側からサポートする役割を果たしたい」と設立にあたっての私たちの基本的な想いを述べました。



続いて吹田市長井上哲也さんからは「次世代を担う子どもを育てていくと言うことは非常に大切なこと、『吹田こども支援センター』がいろいろな課題を持つ子どもを支援し、悩む親や先生方を支える場所として発展することを期待したい」との祝辞をいただきました。



吹田市教育長西川俊孝さんは、「昨年度は、小中学校併せて98名が退職し、新任教職員が104名赴任された。このように、吹田の教育を支えている教職員の景色が、ここ数年大きく変わる状況を迎えています。そうした事態にあって、教育は、教育委員会や市役所だけではなく、むしろ地域の方々や大学の関係者など様々な方が、お互いに情報を共有しながら、ネットワークを作り盛り上げていくことが必要だと思います。大きく変わりつつある吹田にあって「住むなら吹田」「子育てをするなら吹田」と言われるような信頼される吹田を作っていきたい」と市民ネットワークの重要性を述べた祝辞をいただきました。



次いで、関西大学教授であり吹田人権協会長の山本冬彦さんは「この度の『吹田こども支援センター』が果たす役割・仕事は2つあります。

1つ目は、子どもや保護者・地域の方が、様々な事について気安く相談できる場所となること、その内容をいろいろなところへ繋いでいけるネットワークを作ることだと思います。



2つ目は、子どもの放課後の活動や地域のイベントの下支えをする役

割があります。地域の個別の取り組みに対する助言など、この『吹田子ども支援センター』でしか出来ない役割・仕事があると思います。活動には、若い人の力を借りながら取り組みをすすめていってほしい。私たち大学関係者も協力したいし、みんなで盛り上げて行きたいと思う」と話していただきました。

元大阪薫英女学院副校長の山本喜平太さんは、「子どもにとって、大人は安心して話せる存在、安心して話せる『おじちゃん、おばちゃん』であるということ、大人は、金儲けや競争ばかりしているんじゃないんだよ、そういう世界もあるんだよということを発信してもらいたい」と述べられました。

吹田一中校長の松井静子さんは、「校区に『吹田子ども支援センター』が出来たということは、心強く、校区の校長としても嬉しく、期待しています。」と述べられました。

千里山自治団体協議会理事長であり、一中校区地域教育協議会会長の藤木祐輔さんは「地域の全ての組織、地域をあげて、『支援センター』をバックアップしたい」と述べられました。

千三地区公民館館長の富川鬼正さんは、「森本先生から、話を聞いて、これは捨てておけないと思うと共に、森本先生の熱意に負けて、私の事務所の一角を開放しましょうということになりました。それからトントン拍子に、すごい勢いで開設準備がすすみました」と『吹田子ども支援センター』開設に至ったいきさつと経過を祝いの言葉の中で述べていただきました。

吹田市市議会議員の足立将一さんは、『吹田子ども支援センター』に集まる情報、集まる声などを、市政に反映されるように働きかけたい」と述べられました。

吹田市市議会議員の池淵佐知子さんは、「3人の息子を育てた母として、子育ての苦労の際、身近なところに教育の専門家がいる、気軽に相談できる場所がほしかった。その頃に『吹田子ども支援センター』があれば絶対に私は駆け込んでいたと思います。そういう意味でも、千里山に出来たことはとても嬉しい。吹田市内の子どもや親たちみんなが来ることが出来るような開かれた場所になることを期待しています」とお話しいただきました。

吹田市市議会議員の西川巖穂さんは「子どもたちを支援する『支援センター』の方々を支援していく」とユーモアたっぷり話していただきました。

吹田市市議会議員の矢野伸一郎さんは「地元で『吹田子ども支援センター』が出来たことは嬉しく、発展に寄与したい」と力強いお言葉をいただきました。

祝辞やご挨拶では、皆様方が「吹田子ども支援センター」が果たすべき役割について述べてくださり、期待が語られました。その役割が果たせるのか、期待に応じられるのかと不安もありますが、歩みを進めたいと改めて思いました。



代表挨拶の要約



本日は、お忙しい中、当吹田子ども支援センターの開所式にお越し頂いただき、誠にありがとうございました。

今日の開設に至った経過と私たちの想いを簡単に述べたいと思います。

定年前の6年間で、この地域の学校である吹田市立第一中学校で過ごしました。その間、すばらしい子ども達との出会いや、地域の方々とのふれあいがありました。

定年退職後の5年間は、竹見台多目的施設で行われている吹田市立教育センターの不登校児童生徒支援事業「学びの森」の支援員として子ども達に関わってきました。

本年3月末に、退職を迎えるにあたって、漠然と4月からの生活、日々の過ごし方を考えている中で、様々な事情を抱えた子ども達や子育てに悩む親たち、教育現場で奮闘する教職員へささやかなエールを送れないかと思いました。そうした時、3月末に旧知の富川さんに偶然出会い、想いを伝えたところ、富川さんのご厚意と友人の津田さんの同意があり、さっそく「吹田子ども支援センター」を立ち上げることになりました。

私たちは、この『支援センター』を、このような活動をするようにしたいと思っています。第一に、子ども、保護者、教職員、地域の人達が気軽に立ち寄り、集える場所にしたいということ、第二に、子ども達や保護者、教職員の教育相談や支援事業、教育に関わる講演会や研修会企画を行うこと、第三に、退職教職員たちに情報提供し、子どもへの支援へのつなぎ役になることです。

それらを通じて、支援センターを継続発展させ、教育を支える市民ネットワークの構築に寄与したいと思いました。

事務局長より



大阪薫英女学院での教員生活を32年間過ごしてきました。少し年齢的に余力のあるうちに、「地域貢献」を柱に第2の人生構築を考えようと、昨年より新しい生活をスタートさせていました。

そんな中、森本先生と出会い、今回のお誘いを受け、志に共鳴し共に「吹田子ども支援センター」を立ち上げることにしました。森本先生とともに頑張ろうと決意しています。

今後の活動についてご連絡をさせていただきます。

先ず、相談事業に加えて、年間3～4回程度、講演会や座談会、研修会を実施する予定です。

既に第1回を5月23日に、当センター相談員である山本喜平太さん(元大阪薫英女学院副校長)を囲んでの座談会を実施しました。今後、秋には、箕面東高等学校の森本光展さん、当センター理事であり前大阪女学院高等学校校長の安田信人さんの講演を企画しています。皆様方のご要望がありましたら、事務局までお伝え下さい。また、ホームページを立ち上げ、毎日のようにデータを更新していますので、是非ともご覧頂くよう皆様をお願いします。